

## 寺田典城秋田県知事 講演会

### テーマ「秋田県知事大いに語る ～行政の現状と課題～」

日時：平成16年1月14日（水）

場所：青森県庁舎西棟8階大会議室

## 講演

### ・はじめに

みなさま、こんにちは。なかなかこちらまで来ることは少ないのですが、青森県は本州の端っこでございます。端っこという言葉を知ると、みなさん嫌がるかも知れませんが、私も、秋田の端っこなのです。また、青森市から大館市までの距離と鹿角市から大館市までの距離では、どちらが近いと思います？こちらにくる方が近いのです。

秋田は、周りを青森、岩手、山形に囲まれて日本海に面しています。そして、一番遠いところに秋田市があるわけです。ある面では青森市がここまで大きくなってきたのは、函館と近いからかというよりも、周りが海に囲まれて、そして1つの港の拠点だったということなのかなと思ったりもしています。そのようなことを思ってこちらへ来ました。

### ・時代とともに思考回路を変える

今日、こちらに来てからで、マル海ラーメンを食べまして、アスパム（青森県観光物産館）の展望台でコーヒーを飲みました。昨日は、大鰐温泉に泊まりました。なぜ大鰐温泉に泊まったかなのですが、大鰐温泉は平成5年には1年間で、お客さんが36万人来ていたそうです。現在は12万人だそうです。大鰐温泉に特別関心あったわけではないのですが、過去からの状況としては、第3セクターが破綻したとかいろいろお金がかかっているようです。

私の県では田沢湖高原スキー場があります。ここのスキー場は過去、年間31万人位の人が来ていましたが、平成15年は13万人になりました。それだけ落ち込んでいます。これは率直に言って、不景気とか、少子化とかというよりは、時代が変わったということを確認するを得ないと思います。変わってしまったのです。

もう少し数字言わせていただきます。例えば、携帯電話の台数です。今から10年前、平成5年、秋田県は4,200～4,300台でした。青森県は、人が多いからとかで、5,000台位あったと思います。今、青森県はおそらく70万台ぐらいあるでしょう。秋田県も60万台近くあります。インターネットだったらどうですか？10年前インター

ネットは無かったです。青森県も秋田県も無かったと思います。今、50%近くまでインターネットが普及しています。

それから、高齢化率です。高齢化率が秋田県の場合は、平成5年は18%。それがここ10年間で26%になりました。青森県も現在、25%くらいでしょうか、大体同じような数字です。子どもの生まれる数も1万人を少し超えていたのが、今は8,200~8,300人で約2割弱、17~18%も落ち込んでしまっています。

それよりももっと深刻な数字は何かというと、高卒者の求人数です。平成5年の高校の求人数は、約11,000人あったのです。先程、副知事さんからお聞きしましたが青森県は147万の人口だそうです。秋田県は今117~118万人と30万人位少ないですが、秋田県では平成5年で求人数が約11,000人もありました。平成15年は2,600人です。4分の1近くに減りました。高卒者の求人数が11,000人から2,600人、どう捉えますか？時代は、もう変わってしまったということです。

時代が変わったということについて、今までどおりの行政の思考回路でものをやって、これは恐らくやれるわけがないということになってくるのではないのでしょうか。数字だけ見てもそうです。今の社会現象というのは、こういう紙持ってきたのですが、(A4版の赤い紙で)赤字国家の日本の国があります。ある面では、国家が社会を引っ張っていくという形が一番理想的だと思います。国家というのは永田町とか霞ヶ関です。

ところが今は、社会が進んでしまって、国家の政策を例えば県庁があって県民を引っ張っていく、方向付けをする(赤い紙の下にA4版の緑の紙で)というのが、県庁自体のやり方が遅れて、社会が進んでしまっている。こういうことになったらどうしますかということだと思います。

私はこのことについてある程度、突っ込んで話をさせていただきますが、変わったということが1つ、今日のしゃべる前提条件です。頭に入れてください。国家というか権力と社会。どっちが遅れているか、進んでいるかということが行政の課題で一番大きなことじゃないのかと思います。

## ・税金を払う立場から使う立場へ

自分の経歴について、少し、お話しさせていただきます。秋田県に1940年に生まれて、63歳になります。私は普通の人より変わった経歴というのは特別持っているわけではありません。ただ、少しちがうことは、まず婿になったことでしょうか。結果として、私は婿と社長と市長しかやったことがない。知事を辞めれば、知事をやったことがあると言うかも知れませんが、婿と社長と市長やったことがあるのです。皆さん、婿になったことのある人、ちょっと手を挙げてみてください。いないの。誰もいないの。まあ、そうですか。

たまたま婿になった先の親父は、60歳で亡くなりましたが、私が35~36歳の頃、今から30年近く前ですが地方の政治家をやって亡くなっています。保守合同時代の三木武吉の秘書をやっていました。自由党と民主党、鳩山さんと吉田さんが一緒になる頃、昭和30何年頃です。その頃の話はよく聞かされてきました。当時、政治については、それ

くらいで、あまり関心も無かったのです。

その後、なぜか横手の市長に知らない間になってしまいました。私は50歳まで民間の経営者をやっていました。建設関係もやりました。それから、35歳頃から50歳頃までよく旅に出るのが好きで、世界50～60カ国、1年に30日位、パックツアーやバックパッカーに行きましたし、また、友達のとつてを頼って行きました。1年に30日間位ですので15年間で450日ほど海外を歩いてきたこととなります。なぜ歩いたかという、外国のいろいろな異文化を見たいというか、世の中の価値観を知りたいということです。

一番仕事の上で影響を受けたのは、やはりイスラム社会です。昭和48年頃、オイルクライシスがあった頃ですが、燃料が大変なことになるということで、私は3つ、4つ会社を作ったわけです。燃料を扱う会社を作ったのは、それは中近東へ行ったことがあったりしたからだだと思います。100億円以上の企業で、年間、国税2億円と県税2億円位納めていました。私の姻族・血族が誰もいない会社でした。

それはそれとして、民間にいた時は、いかに税金を納めるのが苦労するかということだけは覚えています。それが、市長になって税金を使う立場になったということです。このことは物凄く強烈に感じるものがありました。いかに税金を納めるか、税金というのは発生主義ですから、金が無くても利益が出たら確実に払わないといけません。法人税、事業税、地方税も入れれば、相当な金額を間違いなく払います。その税金を使う立場になりました。

当然、行政経験はゼロです。びっくりしたのは、役所の方というのは、勤務内容が法定主義、給料は人事院勧告など聞いてショックなことばかりでした。それから議会から予算を認めてもらわないと事業ができないということも全然知らないで、市長になったのです。

そして、とにかく分からないから勉強しました。国土交通省、農林水産省と厚生省から事務キャリアを3人位呼んできて、市役所の人間を2人か3人傍に置いて2年間勉強したのです。人口4、5万人の町に、事務キャリアなんか1人も来るものではないのですが、無理矢理連れてきて、毎日勉強しました。

話はそれですが、役所であんなに宴会があるとは思わなかったですね。あれは多分食糧費だったと思います。「これ、やめようよ」と言いました。私は市長になる前は、役所というのは午前8時から午後5時まで勤めれば、正直な話、仕事がないものだと思っていました。ところが、昼、宴会があって、また午後の3時に宴会があって、夕方の6時にもあったりしました。2カ所も3カ所も同じコンパニオンさんと会ったりするときもあるのです。こんなこともあって、みんなで体調を調査したら、7割の方が調子が悪いとなりました。また、税金で酒飲んでそんなことをしてもいいのかなと言いました。みんなでやめようよ。これは横手市長時代の話です。そして当時から情報公開も徹底しようということで、やっていたのです。

市長時代に手をつけたことは何かということ、補助金のゼロ査定をしました。今は三位一体改革だとか言って、補助金をどうするかとかやっています。当時の市の補助金なんかわずかなものでしたが、それでも、何百項目とあるのです。査定していったら、もう査定できなくなってしまった。

その種類も栄養補給型の補助金、歓楽型の補助金もあります。それから議員から言われてつけた補助金だとか、青森県もあるでしょう。今はもう情報公開があるから、そんな無茶なことはできない時代になりましたが、そういう良き、のどかな時代だったのです。それで査定ができなくて、ゼロ査定してしまったら、不信任案にかかるところでした。

その不信任案にかかるところで、臨時職員も全員カットまでやったりしました。結局、行政コスト、人件費率を15%位まで落とすべきだとなりました。私の行政に対する考え方というのは、コストです。コストとサービスと対価です。その考えがたまに、先走ってしまうことがあります。それはある面で、批判を受けることもありますし、議会からも強烈に、市民からも文句を言われるときもあります。ですが、やはり民間という出がでて申し訳ないのですが、そういうことも考えないとならないわけです。

## ・日本を変えるキーワード

私は平成3年採用です。行政採用が平成3年です。おそらくみなさんは、私の先輩でしょう。平成3年以降、採用になった人は手を挙げてください。何年なの？平成6年。私が3年先輩ですね。あの当時、まだ地方と国合わせて200兆円も借金がなかったです。今は700兆円を超えています。

今日、日本の国をこれからどうするべきかという、日本が成長するキーワードというのを、私なりに考えて5つだけ挙げてみようと思っています。

市長時代、行政をよく見させていただきました。県庁職員の方、考えてください。市長のとき、県庁の職員の課長職はすごいと思いました。あまりにも県庁の職員が偉いからです。強大な力があって、それは部長職に前もって根回しするとかしてやれば、やれたかも知れませんが、まず一般的に課長職の力というのはすごい。市町村行政から見れば本当にそう思います。しかしそれが、時代に合っているのか、市町村の方が、社会がもっと進んでいるときがあります。県庁は必要なものまで、前例だ、先例だ、過去だということややる。大きい役所になればなるほどそうなりがちです。市役所なんかその気になれば2、3年で変えることができると思います。県庁は入って6年間勤めていますが、変えるのに相当時間がかかっています。

だから、これから国家が変わるとなると大変なことだと思います。1回潰すくらいでやらないと、何ともならないのではないかと思います。私は日本の行政マンは能力があると思います。けれども、そのことだけは、県庁の職員はいかに色々なことが、地方に影響するかということだけは、覚えておいてください。おそらく三村知事はそういう話をあまりなさらないかもしれませんが、きついこと言ってくれと言われなかったですが、言っておきます。そういうことなのです。

## ・地方分権

前置きが長くなりましたが、これから5つのキーワードを挙げます。1つは「地方分権」です。これは当たり前ですが地方の時代なのです。中央集権ではもうやっていけない。県

庁は、全てが、政策形成過程が、プライバシーを除けば、情報公開されているでしょう。会議も全部公開でしょう。うちの県庁はそうなっています。情報公開をせざるを得なし、それがあたり前のルールになってきています。ブロードバンド、情報システムがこんなに整備されている時代です。これを中央集権で困ってやっていけますか。それだけの価値がありますか。世界が全部、インターネット社会です。

この前、正月休みにカナダに行ってきました。12月26日から1月2日までバンフとかでスキーを滑ってきました。そこは世界遺産のところなのですが、インターネットが、昔の公衆電話みたいに、あちこちにあります。機械をガチャガチャガチャガチャやれば、すぐ連絡が取れます。そこに連絡しておいてくれれば、どこでもちゃんとみんなそこに入っています。ホテルの片隅、街頭の片隅、みんなそうです。まだ日本の国は、ホテルあたりでは、部屋にそういう設備があるかも分からないですが、カナダではそうでした。公衆電話と同じようなかんじでありました。

だから、国内をブロードバンド、情報を光ファイバーで結ぶとか、そして行政システムを結ぶとかすべきです。こうなると中央集権では、やっていけないし、価値がないということ。

市町村の合併特例法も平成17年3月まで合併すれば得な法律ができました。これは国家がどういう気でやったのか知りませんが、まず市町村を大きくして合併させて、もっと効率的にさせようということをやったと思います。だけど、こればかりでは市町村が立ちいかなかった場合、国家が転覆します。県庁だって間違いなく、やっていけなくなります。

ゆりかごから墓場までという言葉があります。皆さんはよく分かっていると思いますが、市町村行政なのです。生まれたときの出生届けは市町村です。乳児検診から、義務教育受ける前の検診、成人病検診、介護・医療、救急・災害すべてです。あと亡くなったときは死亡届けまで出します。すべてが市町村です。

ですから、市町村合併というのは、どういうことかということ、いつも1枚こういう紙を持って(A4版の紙を取り出す)、ある大学に行ったら、これでやったら一番分かりやすいと言われましたので、みなさんは大学生よりずっと上ですが、あえて頭の確認の意味で言わせていただきます。

(A4版の紙を縦方向にして)今の市町村行政というのは、こういう形で、これ(縦)がコストです。これ(横)が仕事の量です。権限です。行政システムは、みんな法律で賄えています。(A4版の紙を横方向にして)たくさん合併して、地方分権して仕事をたくさん、権限持たせるからコストはこんなに下げなさい。簡単に言うとそういうことです。これからこうしなさいと、一番わかりやすく言うところのことです。広域行政をしなさいというのです。

キーワードの1つは「地方分権」です。それから道州制も考えるべきです。なぜ私が道州制も含めてこの話をするかというと、今の日本のシステムというのは、親方が、まったく赤字です。(A4版の紙を縦方向にして)こういう日本国があります。(2枚目の紙を取り出して)青森県があります。(2枚目のA4版の紙を最初の紙の下へ)青森県は国の指導のもとで、権限がこんなに重なっています。ばかくさいくらい権限重なっています。構造

改革特区だとか、あんなばかきさいことやったりしています。今度は、地域再生支援推進室です。ここで笑った人がいるけど、呆れて笑ったでしょう。全部、内閣官房の役人が作っているのです。あとでもう少し詳しい内容を言いますが、県庁の職員はこのことについて、何々特区のために役場の職員、県庁の職員と何十人とかかからないとできないでしょう。県庁で説明して、農林水産関係だと農林水産省で説明して、そして構造改善特区推進室で、同じようなことをまたやっているでしょう。こんなにばかみたいなことやっているわけです。

今度は県庁が市町村に対して、こんなに口出しているわけです。(3枚目のA4版の紙を2枚目の紙の下へ)これ重なっているでしょう。道路1本作るのでも、市役所で考えて県庁に理解してもらって、国に申し上げてと、こういうことです。コストを考えてみたら、こんなにかかっているのです。トータルで3割以上かかっている。したがって重複している分、県庁はなくなることでいいと思うのです。

(A4版の紙を縦から横へ)今の市町村合併はこういう合併から、こういう自治体になさいということです。独立してやるのだったら、5,000人の町でもいいです。それはそれでいいと思います。別に反対するものではないです。一般的な考えです。(A4版の紙を縦に)県庁もこういうスタイルでいたら、やれるわけがありません。県庁ももっと広域行政をやっていかなければと思います。理想的にいけば、東北6県が一緒になることだと思います。北東北3県は、平成9年から合意し、いろいろ広域的にやっています。今回のお話しも、そのお陰で来ています。今、課長級の職員が合併についてどうなのか検討しています。3県の知事さん方が話をすれば、同じような投資はやめましようと言っています。役割分担です。

例として、脳に癌が移った場合、その治療にガンマナイフとかいうのが秋田県の病院にあります。青森県の人が、よく来ています。この機械は何十億とかかるそうです。それからペットといって、体全身の癌の検診ができるものがあります。これは秋田県で発明しました。そのかわり、癌の専門治療は岩手県の病院でやってくださいとか、農業試験については青森県でとかいうことです。そういうことで、広域行政のことをお話しさせていただきました。いずれにせよ、市町村が平成17年3月までに合併した後、県行政がいまのままやっていけますかというのと、やっていけないと思います。国家もこれでやっていけますかというのと、これもやっていけないと思います。そうなってくると、ある面では道州制というふうな形で、地方分権を生かすため、県は市町村のほうで担ったほうがよい仕事と思えば、それを全部市町村に権限委譲すればいいと思います。

これは、どういう考えなのかというのと、県は、市町村自立のためのサポートの役だということです。そうやって県は割り切ってしまう。市町村自立するためのサポートの係だと。県は自立走行で、これからもっと広域行政を考えていこうと。これは私が基本的に今、秋田県の職員にしゃべっています。

そうすると、国は例えば外交、防衛、経済、環境だとか、どこまで入るとか、いろいろ基本的なことはやるでしょう。そういうなかで、恐らく行政コストを3割くらい、落とさなくてはならないと思います。市町村の行政職員というのは人口1,000人あたり10人おります。青森県はおそらく14,000~15,000人の市町村行政職員がいらっ

しゃるでしょうか。将来、行政コストを3割落とさないとならないということになると、人員も3割ほど削らないとならないでしょう。私がいた横手市役所は、人口1,000人あたり7人くらいでやっています。やれます。400人の職員がいたのですが、市長の6年間で、2割削ってきました。320人くらいまで人を削減し、300人体制までですということで、やってきました。

県庁の職員も5,000人体制ですが、当初、私の公約は10年間で10%削減だと言ったのです。10年間で2割は削られるでしょうね。今5,000人から4,400人~4,300人くらいの体制になっていると思います。2010年まではおそらく、平成22年までは、4,000人体制にできると思います。地域振興局が8つあります。これを3つの体制にするというと、また1割くらい削れます。3,500人くらいでやっていける。そうなってくると、人口1,000人あたり県庁の職員は3人くらいでできるのではないの？県と市町村と合わせると10人。それは地域振興局3つになっていくことが3県合併したり、東北が州になったりする要件です。

青森県も、財政課の職員、例えば20人いるとすると、北東北3県が一緒になって60人必要ですか。30人もいればいいでしょう。人事課も20人ずついても、50人でもいいやとなる。そういうことで3県合わせると管理系統は、60~70人いればいいのではないのでしょうか。スケールメリットが出てくるのではないの？市町村もそうですね。総務課の職員10人ずついて、5つの町一緒になれば50人ですが、15人とかいけばやっていけると思います。ですが、窓口業務については、落とすことできません。福祉分野だとか窓口業務はできませんが、合理化できるところは、できるのです。

だからこれからの社会というのは、公務員はラス指数100でがんばっていくか、ラス指数80だから2割余計使うかということだと思います。これが組合との話、様々な多様の働き方になってくるのではないかと思います。

三位一体改革の話が出ましたが、まず耳にたこができてしまいました。何も進まない。何か進みました？青森県は。今回交付税と財源対策債とを合わせて、秋田県は12%削らないといけません。300億円近くです。青森県も、恐らく300億円くらいではないでしょうか。交付税2,300~2,400億円とかかいているのを、250億円とか300億削られたのではないのでしょうか。あと財源対策債も削られているでしょう。余所の家計簿を勘定するつもりは何もないのですが、おそらく削られている。青森県だけ特別多いというわけではないですね。三位一体改革だといって、税限も財源も何も移すもしない、権限も移さないでただ削られる。権限も財源もとにかく移しておいて、この金を2,200億円、2,000億の交付税が自由に使えるのだったら、補助金も自由に使えるのだったら、工夫してやれるのです。やれるものたくさんあります。

幼保一体もやれない社会なのです。保育の先生まで言っています。「保育所を守るには、橋本龍太郎さんに行けば大丈夫だそうですね、知事」とこうやって来るのです。幼稚園の先生は、なんと「森さんに頼めば幼稚園は守ることができるそうですね」と言ってくれるのです。

義務教育費の問題は、国では教育の基本レベルの問題だから2兆何千億は地方に渡せないと言っています。これはもっともだと思う。それはそれで理屈は通ると思います。どう

いう教育するのと決めもしないで、みんな現在の県とかに渡してもいいのかと言われれば、そうではないです。1つの理屈です。だったら例えば、道州制をもってきて、教育は州に任せる。基本骨格だけは、日本の教育のあり方を決めるということだけは国家が受け持つけど、一般的なものの全ての教育は州制度にしますと。だから義務教育に係る負担金はみんな州にやります。それはやっぱりこれからの論議です。

財務省は、それこそ所得税から法人税から酒税まで地方へ渡す気はないです。1度、たばこ税を離すなんてことが、あったようだけど、する気はないです。

構造改革特区、青森県では何勝何敗くらいですか？秋田県では、特区は、1勝3敗くらいです。地域再生支援室、構造改革推進室とうのが内閣官房にできて、骨太方針の中でやろうとしているのです。国の役人というのは頭がいいと思います。このようなかみみたいなこと考えて、時間をかけてモニャモニャやって、地域再生に関する基本指針とかで、地域再生プランを県・市町村に提案させて、地域再生計画を策定させている。地方を潰しているのは、自分たちだということを分かっていないです。省益あって国益なしです。地方がないのです。地方を潰しているのが自分たちだというのが、国の役人は気づいていないのです。国家全体で700兆円を超える借金をしていて、それを考えている役人が何人いるのでしょうか。いないですよ。私は徹底して、地域再生のことについては、国で言うこときかなければ、県条例でもかけてもいいから、「やれ」と言っています。やれるまでやってもいいから腹を据えてやろうと。だって県民のために、悪いことしようという気なんか、行政はないでしょう。そういうやり方をしますか？福祉でも医療でも学校制度でも何でも。地域に合ったことをうまくやろうとするでしょう。

例えば、「高齢化に対応した町づくり構想県全域」と書いている。この趣旨というのは何かというと、「地域経済の活性化と地域雇用の創造に向けて、地域が独自の発想に基づく再生計画を策定し、この計画を国がワンストップで受け止め、効率的にバックアップすることにより、地域の再生活活性化を推進する」というのが趣旨です。目的、支援の内容は「行政サービスの民間開放に阻害している制度的要因の除去」だとか、「権限移譲の取り組み促進」だとか、こういうこと書いているのです。

これに対して、秋田県では何を提案したかということ、「本県の高齢化は全国的に最も早いペースで進行しているため、既存施設の多目的な活用や、民間参入の促進、商店街の町づくり一体的に推進、高齢者が生活しやすい町づくりを進める」ということで、1つは学校給食センターにおける、高齢者向けのサービスの実施をしたいということを要望しているのです。

要件は何かということ、給食センターの施設は使ったっていい。学校栄養士の業務の要件を緩和してほしいと。学校栄養士というのは管理栄養士です。業務は学校業務だけしかやったら、秋田弁で言えば、できネエということです。要件を緩和してくださいと。

まあ、まあ、まあ、まあ、本当に、文部科学省と厚生労働省の補助施策の起債の措置の一元化とか、コミュニティビジネスによる高齢者の輸送のサービスの提供、それと地域コミュニティの再生構想で市町村提案なのですが、国庫補助事業により整備した施設の目的外使用の承認基準の緩和だとか、手続きの簡素化。これだって、今お金がなくて、国で建てた施設をなんぼ有効に活用できるかと言われているときに、目的外使用だからダメだと

言っている、ばかっています。

私は国に行けばいつも言うんです。静かにしてくれと言われるのです。局長から官房長から。でも、国は最後まで何もしないのです。そういうことです。私は国の言うことを聞かなくていいから、どんどんやれと言っています。私が最後、目的外使用の許可をしたと。まさか公共施設をいかがわしい施設に使うとか、あるわけではないでしょう。行政は、刑法に触れるとか、これはやったってダメだとかの禁じ手は全部分かっているはず。あなた方は、みんな分かっているはず。それをなぜ中央政府は、そういうことまで信用しないで、地方に任せられないのでしょうか。根本は国の役人の仕事がなくなるからです。

これでまず1つのキーワード言いました。あと20分しか時間ないです。こんなことをずっと言っていたら、明日の朝までかかってしまいますね。

## ・国際化

それから、もう1つのキーワードは、「国際化」です。日本の国は、世界に対応していかないといけない時代になってきたと思います。平和国日本だから、戦争も憲法で放棄していますし、武力行使もしないし、専守防衛です。徴兵制度もない。いいのではないのでしょうか。日本人が世界に貢献するためにはまずどういうことをするかというと、世界を知ることでしょう。

私は他の人とちょっと違うのは、海外60カ国ぐらい、ずっと民間時代に回ってきました。これが、非常に今の自分の考え方に影響を受けています。イスラム社会とアメリカとの問題になった時、これは長引くよと思いました。だって、アメリカとか日本だとか、ヨーロッパの民主主義を、イスラム社会に植え付けようとしても、これはなかなかうまくいかないと思います。それは権力者がギチッと握っている社会で、今のイスラムのどこだってそうですね、それをイラクだけ、今の民主主義にできるのでしょうか。もちろん大量破壊兵器とか何かあったら、これはよくないことですが、これは長引くと思います。

やはり異文化を覚えてもらうことは、日本の国民にとって必要です。そこで、1年に50万人ずつ学生を卒業するまでとか、25歳までとか、若いうちに1年間海外に行ってこいというのはどうでしょうか。1人200万円かけて1兆円です。それぐらい、人の教育に金をかけてはいかがでしょうか。自衛隊の5兆円、1兆円削れとは言わないけれども、そっちを少し削る、あっちを削るなどをして、人材育成に予算をかけるべきです。

そうすると世界と一緒にあって、世界と繋がりを持って、国際社会にもなるでしょう。もっと2年、3年いたければ、それもいいと思います。海外に行ってください。レジャーでも、何の目的でも、どこの地域でもいいです。みんなグローバルです。国際的な中でやっていけたらいいです。それをやるといったら、10年間出したら、500万人が出ますね。10年やったら日本の社会が変わります。私はこのことはいつも言っているのですが、そういう意味で国際教養大学を作りました。この国際教養大学の今度助教授になっていく人を、今日、連れてきました。

なぜ国際教養大学か。私としては、秋田県の国際化の拠点にしようということ。今

までの大学、教育というのは、ある面ではクラシックなのです。保守的です。大学の教授になるには、どういう道筋を辿ればいいのか、どこそこの研究を出して、論文を出して、助手になってということです。これだと新たに参入なんてほとんどが無理です。そして、一旦大学の教授になれば、死ぬまで教授です。1年間通して同じ原稿読んでも、何十年やっても教授は教授です。今地方でも色んな大学を作れるということで、教授陣は3年間の任期任用制、授業を全部英語でやるということです。また留学を義務付けています。大学の教授陣は約6割が外国人です。まずやってみます。どこまでいいものができるか。これ後で大学について10分ばかりうちの阿部から話してもらいます。

## ・男女共同参画

もう1つは、「男女共同参画」です。男性の能力も女性の能力もお互いに今、最大限活用できるし、お互いに尊重して精一杯やっていくことです。そうしないと日本は正常な発展ができないと思うのです。男女共同参画の社会とよく言いますが、女性の能力もしっかり活用し、男性もその能力をしっかり活用することが大事だと思います。

おそらく青森県庁も、女性の管理職が3パーセントもないのではないですか？うちの県庁もそうです。来年は人事課長は女性にしようと思っています。まず女性のしっかりしたポストシステムを作っていかなければならないということで考えています。青森県まで来て来年の人事しゃべってしまったなんて言うと、怒られるかな。

それと、これにはもう少し多様な働き方があるといいなと思います。労働関係が一番がんじがらめなのです。話は変わりますが、うちのほうは35歳で退職制度を認める。催促するつもりはないです。学校の先生も50歳くらいで早く辞めてもいいと。そのかわり、そうならば60歳までは嘱託職員というか、そういう職員にする。それから、退職金も割増をやります。

今度県庁の職員も、仕事の3割はフルではなくて、3割くらい休んで別のモノをやりたいとか、もう少し多様な働き方をやろうと考えています。民間もそれを認めていかなければならない。そして、育児休暇でもなんでも取れる社会システムを作っていかなければならないと思っています。これは、県庁の来年の大きな課題です。これを進めようとしています。去年条例を作りましたから、おそらく学校とか様々な面で退職者が出て、また臨時職員というか、嘱託職員で働くと。どういう身分でやるかは今人事課で検討しているので。そういうことで、雇用の拡大にも繋げようかと。そうすると若い人がまた入ってくれる。今、大砲試射操縦でボンボンボンと200人が辞めても、採るのは30人~50人です。そういう形でいっています。

## ・東京一極集中の是正

もう1つは「東京一極集中」の是正です。地方分権、国際化、男女共同、それから東京一極集中です。青森県よりは秋田県が何か大きいところといえば、土地の広さです。人口は青森のほうが多い。秋田県と同じくらいより、ちょっと広いくらいのが東京圏です。神

奈川・千葉・埼玉が東京圏です。あの地域で人口3,400万人が住んでいるのです。それはいいでしょう。この前、小泉総理に、その話をしました。それから10億円以上の企業が半分あります。もちろん、首都機能移転とかやっていますが、それこそ国会決議を2回もしています。また今の総理官邸や文部科学省を建てたり、全然移る気ないようですね。日本の国は言ったことまで守らない国になりました。そして東京スタンダードで、東京高コストです。青森県に工場がくるのは、東京よりコストが3割くらい安いからです。秋田県に来るのもそうです。3割くらい安いからです。給料から何から何まで含めてです。総コストが3割くらい安いからです。税制度からいけば本社が全部一括して本社地域で法人税払っています。一応地方には何人工場にいるからこうだとかしていますが、みんな本社のシステムで子会社にしてしまって、すべて本社が利益出して、法人税からみんな東京に集まっているシステムです。税法でも今は絶対東京一極集中が利益が出るような税制システムなのです。それは霞ヶ関の人がたが考えました。

これで、阪神淡路大震災みたいな震災きて、東京はもちますか。誰が責任取るのでしょうか。小泉さんは、内閣総理大臣はあそこでヘリコプターに乗って、あそこにボンと行くかもわからない。だけど、特定の人だけで、各省庁の人がただけで対応できますか。青森だったら何とか来るでしょう。だけど、東京に阪神淡路大震災きたら、どうするのでしょうか。経済も文化も政治もすべてあそこです。この前、内閣の人がたにしゃべったけれども、頭かかえておったのです。それから、中川さんだとか森さんにも「あなたが一番きついな」と言われたのです。小泉さんには知事会議で会ったら、自分は「首都機能移転はしたほうがいいと思う」とはっきり言った。ただし肩透かし。今は忙しくて他のことたくさんやらなくてはいけない。無理だと。やる気がないからです。

だったら、例えばアイルランドでも韓国でもどこでもあります。東京で、例えば法人税3割だったら、北海道、青森、東北地方は2割でいいとか。いくらこちらに道路を作ろうが、橋を作ろうが人口増えますかという、道路が増えたからと言って、工場がくるとか人口増えるってないでしょう。もちろん高速道路は絶対作るべきだと思います。1つの近代国家のツールなのです。絶対作るべきだと思うし、道路特定財源使ってでもやるべきだと思っています。そのかわり、質素なものを作ってくれ、コストも落としてくれと。できるだけ料金も安くしてくれというのが、基本的な考えなのです。

とにかく地方へは2割を納める。そうなってくると、人材、会社も地方に来ます。たくさん利益出してもらったらいいでしょう。何も東京で高コストで、過剰なまでの金を使っている必要が何も無いのではないかと。みなさん、おたくの息子さんでも、家族の中で東京に関係ない人手挙げてください。一切、うちは東京と関係ありませんという方、いないでしょう。誰かが行ったりしている。こういう東京一極集中はやっぱり、ある面で国家の安全面も含めてやめていかなければならないだろうと思っています。

## ・時と豊かに暮らす

あと最後は、「時と豊かに暮らす秋田を目指して、遊学3000」です。平成12年に秋田県の計画は、「時と豊かに暮らす秋田21計画」「時と豊かに暮らす秋田遊学3000」

と書きました。これを書くとき、この不況のとき何を考えているんだと、経済界から非常に言われました。遊学3000とは何のことだと言われました。

1年は365日、1日は24時間です。1年を時間にすると8,760時間あります。1日は例えば、10時間は基礎的な時間、ご飯を食べる、眠るとかです。1年にすると3,600時間です。そうすると5,000時間残ります。それに労働時間に約2,000時間取られれば、3,000時間くらい残るだろうということです。残らないかもしれないけれども、まず残るだろうと。リタイヤした人なんか、5,000時間残っているかもわからないですね。

「遊学3000」。日本人というのは、何が一番下手な国民かということ、自分の人生を楽しんでこの世の務めを終えるということが、一番下手な国民だと思います。みんなあっち向いて、こっち向いてなのです。ストイックでためて、表現しない。

子どものときから、自分の人生を楽しんで生きるということ。そして60歳になって一生懸命俺は働いた、十分働いたから、でも70歳になって働きたい人もいるかも知れないし、そしたら働きなさいと。俺は55歳でもう十分、あと余生は、まだ体力あるうちにハッピーリタイヤしたい。そして社会に何かで還元したい。この制度が日本人が遊ぶ・学ぶということ、しっかり自分の人生の大きな要素にできるかどうかだと思います。

県庁の職員というのは、60歳まで働いて、あとは辞めたら濡れ落ち葉になるという。やっぱり現役のとき、趣味とか何かを持つことです。私は県民に言っているのですが、高齢化社会を迎えて大変だと言うのだけれども、一番天国に近い県になったのだからと言っています。秋田県が一番高齢化率進んでいるのだから、そういう考え方をしましょうよと。そして、明るく、もう少し生きることの大切さを味わって生きることが必要ではないでしょうか。これは社会政策としてもある面では、考え方として取り上げていかなければならないと思います。そうすると日本は消費拡大で、もっといい発想とか、もっといい物ができてくると思います。

この前、カナダに行ってきました。日本人はほとんどいない。昔はいたようですが、今はいないです。外国の人は夢中になって遊んでいる。スキーを滑ったりしています。そしてマクドナルドのハンバーガーだとか食べたりしています。宿代は冬になれば高くなります。ホテル代は一人2万円も3万円も取られるから、飯は安くする。あとそこは自然遺産ですから、景観もきっちりする。景観というのは、非常にあちらは大事にしています。

自分の人生を楽しむことについて、本当に徹底しています。子どもも含めて、子どもを連れて、そのことを教えているのです。それは、最も日本人が下手です。

## ・おわりに

今日は、5つキーワードをお話しました。日本の再生ということであったのです。いずれにしても、中央政府、永田町、霞ヶ関は危機感がありません。秋田県庁でこの正月に、「あなた方も危機感ありますか？」と職員に言いました。これだけ、厳しい行政の状況の中で危機感持っていますかと。そして、同じ思考回路で今年、平成16年度に向かっても、あなた方やっている政策は役に立ちませんよと。もう時代変わったのですから。こういう話

です。

私はどちらかというと、知事の大選禁止論者なのです。やっぱり社会が変わるといって、いつも思うけれども、日本の国を心配します。このまま行き詰まってしまうのではないかと。だからといって、政権が変わるだけの政党が育っているかと思えます。霞ヶ関の官僚は、まだ自分たちに省益あって国益なしということでやっています。政権交代になるのか、政界再編になるのかこれが今の私の、また一人の政治家として、大きな関心事なのです。

いずれにしても、あなた方は三村さんと木村さん2人の方を間近に見たと思う。やっぱり考え方が変わると思えます。木村さんはあのおりもう、青森県のためには、ものすごいがめつい人でした。私なんかなんぼ「あそこの道路作るのに賛成してくれ、新幹線の建設に賛成してくれ」と言われました。それだけががんばった人です。そういうやりかたの人。今の知事さんと比較するつもりは何もないのですが、そういう2人を見てきたことは事実です。

だけど人が変るといってある面では社会が変わると思えます。日本の国は政権が40年も変わっていない。昭和33年の保守合同以来、変わっていません。地方から変わっていかなければ国が変えることができないんだということを考えてください。

だから秋田県もそういうがんばり方をします。私は今度、岩手県に行ってもそういうことを言ってきます。地方から変わることによって国が変わると。そうして変えていかなきゃ、もう地方行政やっていけないです。しゃべりたいのはそこです。

そういうことで、つたないお話を1時間お聞きいただきましてありがとうございました。

国際教養大学のことについて、ちょっとうちの阿部から話させます。この人、日本の大学出て、ロンドンに行ってケンブリッジの講師やってきて、こっちに帰ってきました。また大学を探してみたら日本の大学は、あまりにも閉鎖的だといいます。

本当に、革新的な人ばかりの大学でそのスタッフの1人です、以上です、よろしく。

## 国際教養大学について

### (阿部政策監)

手短かにいきたいと思えます。ただいま、秘書課の政策監として1年だけ働いておりますが、これは仮の姿で、この4月から新しく県でできます国際教養大学で教えることになっています。

簡単に国際教養大学のことについてお話ししたいと思います。先ほど知事からも申しあげましたように、今度の大学ではすごく実践的に英語をきちんとやってもらいたい。それも英語を話せるようになるということだけが目的ではなくて、英語が使えるようになる、英語で何か仕事ができるとか、英語で何かコミュニケーションができるとか、英語が最終的な目的ではなくて、単なる道具であって、英語を使ってもっと世界にはばたけるような、

そういった人材を作りたいということを考えて、作られた大学だと思っております。

現在、日本人は、中学からずっと義務教育で英語を勉強していますけれども、大学を卒業して英語が使える、英語を実践的に仕事で生かせるレベルの学生というのはたったの0.25%だそうです。

日本というのはある意味で先進国で、国際社会をリードするべき役割をも担うべき国ですが、それでも、そういったコミュニケーション能力というのが非常に低いわけです。それは非常に恥ずかしいことでもありますし、今後いろいろな意味で国際社会で働く際にほんとに何歩も遅れをとっていることでもあります。

特に海外で教えていまして、日本の若者とか日本の社会全体は、非常にいいところはいっぱいあるのに、そういうところで損をしていると思います。それから言葉だけではなくて、言葉の背景にある文化的なもの、例えば各国の価値観ですとか先ほど知事が申しあげましたようなイスラム社会はどんな価値観を持っているとかそういった世界の文化的な価値観とか信念がわかっていないと結局は言葉ができてなんにもならないわけです。ですから、そういったことを重視して教えたい、そういった大学にしていきたいと思っております。

具体的には、まずは英語だけのEAPというイングリッシュ・フォー・アカデミックパスというんですけれども、つまりアカデミックな部分で使える英語を勉強する段階を3段階設けております。1、2、3という行程があるんですけれども、できる学生は、3の段階からすぐに入ります。どんなにTOEFLの点数のいい子でも1番最後の3の段階から入って、そこでまず学術的な論文が書けるような英語を学んで、3段階が終って初めて一般教養科目を取れるというシステムになっています。

その3段階は、習熟度別になりますので、ある程度できるようになるまでは何回も繰り返したり、また、ぐんとできるようになったら1から3に進めたり、そのへんは非常に柔軟に考えています。

それからの授業は、すべて英語です。外国人の先生方が、だいたい60%ぐらいなんですけれども、日本人の私たちとか、それからスタッフのメンバーも一応英語で全部やるということです。校内ではすべて英語が共通語ということで、掲示板ですとか学生要覧とか、そういったものをすべて英語にするつもりでいます。

図書館も24時間オープンで勉強する体制を整えています。今、一般的に日本の大学というものは、入るのは難しいけれども出るのは簡単で、遊びが重視されてるようなイメージがあります。それを撤回するような「勉強するための大学」ということで、中に入ったら勉強する、卒業するのは難しい、勉強しない人はやめてもらう、そういった大学にしたいと考えております。

そしてその基盤教養が終ったところで1年間、アメリカか、または中国に留学をして、1年間の留学が終ってから、また戻ってきて最終的にうまくいけば4年間で卒業という構想を持って、この4月からスタートすることになっています。

今、ちょうど推薦入学試験の結果が、発表になったばかりで、本当にまだスタート段階なんですけど、どんなふうになりますか、これからみなさんにも見ていただきたいと思います。私たちも中で一生懸命がんばっていききたいと思っております。簡単ですが紹介させて

いただきました。失礼いたします。

**司会：**ご紹介が遅れましたけれども、ただいまお話、ご説明いただきましたのは、秋田県秘書課、政策監の阿部祐子さんでございます。

**秋田県知事：**あのね、ちょっとそれで今の国際教養大学なんですけれども、事務職員までTOFELで950点、900点とかとっています。

MBAの資格を取った人だとか、すべてそこのキャンパスに行くと言葉が英語でやろうということでアメリカの大学との単位を交換した場合は、両方での大学の資格を得るとかです。

それで、今度専門大学院を作ろうとしています。もう2～3年後に。うち県庁の30歳以降の職員は全部英語でビジネスできるようにと。5年したらそれを言おうかなと思ってるんですけれども。県庁の職員もそのぐらいのことは今、国際化対応しないと。

それから、アメリカとかカナダでも中国からでも留学生半分ぐらい来る予定です。10対5ぐらいの感じですね。そういう形で、キャンパス自体が異文化交流みたいになってほしいと思います。

世の中の革新的な先生方だけが集まりました。中島さんという方が学長です。この人はあまりにも改革派で学長候補になったのですが、あまり改革しすぎて学長に選ばれなかった人なんです。そういう人方とか。クラークさんだとかいろんな人方みんな来ております。どういう大学ができるのかこれからでしょうね。そんなところです、補足をさせていただきました。

## 質疑応答

**司会：**

それではご質問をお受けしたいと思います。どなたかございませんか。

**知事：**

なんでも結構です、はいどうぞ。

**小野：**企画課の小野と言います。2つ質問があります。

先般、長野県の田中知事が、仕事初めのあいさつの中で長野県にとって「信州」という名称は重要なキーワードの1つであると。長野県こそ、「信州自治共和国」ではないかと。「長野県」という名称を「信州」という新たな名称に変更しようというような話があったとニュースで報道されております。

そこで1つ目の質問ですが、このことについては、国のほうでも意見が分かれているよ

うですけれども、寺田知事さんはどのようにお考えでしょうか。ちなみに秋田県の「秋田」という言葉については、日本書紀や続日本記に記載のある由緒ある県名だと記憶しております。

一方で、北東北3県に目を向けますと、1月7日の河北新報に載っていたかと思うんですが、岩手県の増田知事さんが、北東北に変わる新たなネーミングを考えたいというような発言をなされておられました。

そこで2つ目の質問です。3県が、もし仮にですが、3県合体した場合の名称は何がふさわしいとお考えでしょうか。将来、仮にということ、あくまでご質問いたします。ずばりこの場で名称をいきなり聞かれてもということがあると思いますので、この地域にとって特色あるこの地域を表すキーワード、そういったものでも結構ですのでお答えいただければと思います。よろしく願いいたします。

**知事：**

長野県ね、信州県とか信州とかって。あの人作家だから。物書き屋さんだから文化的に考えて「信州県」とかって、理屈で考え、歴史もある程度考えたでしょうけれども。あまりそのことについて国も取り上げるとか、あれすることじゃないと思います。長野県民が決めることなんで、確かにあちら信州って言いますね。

だから私どう思うかと言われても「ああ、まあ田中さんらしいな」と思います。よくあの長野県の事情は、うちの理事というか、総務部長をやって理事やっている人が、あそこの財政課長をやってきた人だから、長野県のことにはよくわかるんです。

それから北東北3県ね。増田さんは新しい名前を考えると。私は思いつきません。北東北3県でもいいんじゃないんですか。ただね、青森県でもいいと思うんですよ。なんていうか名称というのはそんなに大事なことはないと思います。それは歴史があって秋田県も大事でしょうけれども、やはりそれよりも県民がいかに幸せで、それこそ広がりのある社会を作れるかという、これからの21世紀の県行政やれるかという。道州制になるとすれば広がりのある可能性のある行政が必要です。

社会現象として、人が少なくなる地域というのは、要するにこれは社会現象としてね、これはみんなデータも出てるんですけど、人材が育成できないんですね。みんなポストが決まっちゃってるんです。これは青森県の県庁の職員でこれはあそこのラーメンのマル海さんですか、おやじさんだとか、銀行の職員だとか学校の先生だとかみんなポストが決まっています。

だから人が増えないところというのはみんなそうっちゃう。だからやはりこれからの時代というのは、これをもう少し広がりを持つというとなれば、道州制を持つようになれば、やっぱり青森県の人と秋田県の人、もっと交流を持つようになるでしょう。県庁の職員同士だって。県庁を大鰐あたりにちゃんと建てればいいんですよ。3県の真中あたりに。

私は秋田県が本当に変わるんだったら「こんなことだっていいんだろうな」と思ったことなら、なにも秋田市じゃなくてもいいと思うの。

みなさん知っていますか？田沢湖と駒ヶ岳、行ったことあります？あの広大なあそこに

ね、県庁持っていけば。そして、みんな1人50坪くらいの菜園持って、子どもも一緒に住んで、家族も。やはりもう少し、そういう人生も生きるということを思います。

だから、国の官僚、あの狭いところにいてね、夜中の12時、1時、2時まで働いてでしょ。本当によく言うんですよ。国から来てる方に。「おめな一可哀想だな。また帰れば2時、3時かい」って。奥さん子どもいて、それこそ「子ども育てるかあちゃんの顔見る時間あるのかい。それでいい生活できるのか。いい政策できるのかい」と。やはり、だからそういう点では広がりあったほうがいいです。以上です。またわけわからないことを話しました。何県いいでしょう？「三内丸山県」でもいいです。

**小野：**

ちなみに、私も参加した若手3県の自主研修グループの北東北広域政策研究会の報告書、8月に出しておりますが、それで「東北特別県」という名称がいいんじゃないかと。というのは、残りの南3県も仲間に入れてあげようというような趣旨で、まず北東北にこだわらず、東北という名称をつけようということにしております。

**知事：**

「特別県」ね。いいんじゃないですか。早くやりましょうよ。

**司会：**

それでは、他に質問あるかたございませんでしょうか？はい、どうぞ。

**細谷：**

総務部秘書課の細谷と申します。ちょっと公務を離れた知事さんのお話をちょっとお聞きしたいんですけれど。

先ほど若い頃旅をされたというお話もありました。年末年始はカナダのほうに行かれたと。何かで読んだんですけれども、自らハンドルをにぎられて、ドライブをしたりされることもあると聞きました。余暇をかなり有効にお使いになっているという話もお聞きしましたけれども、どういうふうに普段過ごされているのか休日等少ないと思いますけれども、どういった過ごし方をされているのかということをお聞きしたいと思っております。

もう1点はですね、息子さんが代議士になられたということで、なかなかご家族と一緒に過ごされる機会というものはないと思われるんですけれども、何か工夫等されておられますでしょうか？そこらへんをちょっとお伺いできればと思っております。

**知事：**

あのですね、私は目標設定をはっきりさせますし、仕事のスケジュール、遊ぶスケジュールもすべてが時間が入っています。

ところが土日だけは、「いつ遊ばせてくれるの」と言うから、秘書課の時間担当と始まります。それで去年、山登り、白神岳も行ってきました。去年山登り15回登りました。15回ですね。だいたい1,000m登り降り15回と。

だいたい10 km から20 km の間ですね。鳥海山だとか駒ケが岳だとかね。私はスキー、山登り、ゴルフとかなんか入れれば50回はおそらく行くでしょう。50回は最低行きたいと思ってます、行きます。そうですね、この3連休はそれぞれ2回スキーに行きました。1回は隠れて行きました。

それから車は自分で1年に1万キロ運転します。前の前の連休には、青森からフェリーに乗って、札幌の「だるま」っていうマトンの肉を食べたいなと思って。知ってる？行ったことある？おいしいんだよ。だるまと言って、北海道の人方は、たいてい知ってるけれども。それからトマム見て、トマムがいかにバブルでどうしたのかと見たいから、トマム見てね。それから釧路見て、襟裳岬の地震の跡見て、2泊3日で帰ってきました。3人で行って私が7割運転したかな。6割くらいですね。できるだけ普通の生活もしたいなと思っております。

あと家族とはね、やはり学生時代から子どものときから、そんなに「おうおう」なんていう程度だから、あんまり。このごろある程度の年代いくと、ご飯食べるときは女房とよく話を聞きますけれどもね。息子との話というのはあんまりは。なんか用事あれば「うん」なんて言う程度でお互いに干渉せずっていう。

やっぱりあれでしょ、同じオス同士だからね。親子でも別の人格、人間だから。あれですね、たまに帰ると議論ふっかけてくるときもあるけども、私も議論ふっかけてやるときあるけども。あるときは、それは時代感覚の差だななんていうときもあるんですけどね。あまり深い話はするときには、深くっていうか、なんかあればするでしょうけれども、ないですね。はい。

**司会：**

他に質問ございませんでしょうか？はい、どうぞ。

**鈴木：**

青森県税務所の鈴木と申します。知事の話の中で「遊・学3000」の話がでたんですけども。その話で日本人の下手なところというのは、自分の人生を楽しむところがどうしても下手ではないかと。

知事さんが外国とかいろいろ見られて、外国人の方がよく人生を楽しんでいると。私も平成12年度ですけども、国際課にいまして、そのときにロシアのハバロフスク、ここに9ヶ月研修で住んでいまして、ちょっとロシア人の生活をずっと見てたんですが。やはり自分の人生をこう楽しんでいるなという印象を受けました。

やはり日本人はどうしても仕事優先で、余暇を楽しむというよりは、そういうエネルギーはやはり仕事に使うべきだというような、基本的にまじめにというか根底にあると思うんですが。余暇を楽しむ、人生を楽しむべきだということは必要なんですが、なかなか掛け声だけはちょっと変らないのかなということで。秋田県が進めているこの「遊・学3,000」の、これは人生を楽しむために具体的に県のほうで、「こういうふうな政策をしてみなさん人生を楽しむようにしましょう」というような、なんか具体的な政策とか考えについてちょっとお聞かせ願いたいと思います。

知事：

今、どの程度守られるか、秋田県庁では午後8時以降は消灯ということになっています。まあうちに帰れということですね。県庁の職員、まあそうとう守られてないところもあるけれど、かなり守られてもいるでしょう。かなりショックのようでしたね。それから残業する人は能力のないからだ。それから有給休暇取れないのも能力がないからだ。休みを取れと。

だから残業手当なんか、ものすごく減りましたよ。今12億ぐらいまで、下がっちゃったな。庁費が25%です、うちの県は。全国でベスト2ぐらいですよ、金のかからないのは。その代わり公債費負担率はワースト2ですね、鳥取県に次いで。それだけ借金返してるといことです。

経常収支比率は90ぐらいなんですけれど。行政コストに対しては、やはり時間効率を求めます。時間効率、それは求めますが。あとはね、休みとるのは本人の能力よ。あとそれを上司が認められるか認めれないか。だから上司が、要はなんていうか、私は5時以降働かないことにしております。5時以降何か印をもらうなんか用事にきたら「残業手当だせ」と言いますからね。その代わり朝、8時半からとかに県庁での時間はとれます。あと自分の時間というか、休む時間というか遊ぶ時間も。みんなでそういう休むとか休暇を取るとか、楽しむというのは、やはりそういう文化を創ること。だから「遊・学3000」て書いたと思うんだけどね。やはり1人じゃ無理だと思うんだけどね。あちらに行けば、ハバロフスクの人、ダーチャとか何かやったりして、菜園持ったりして非常に楽しんでおりますね。それはそれなりに楽しいんですけど。

日本人はなんて言うか、お金を使って楽しんで、3日も時間あれば「なんとしたらいいべ」と思う自体がおかしいと思うんだよな。私なんか12月26日から26、27、28、29、30、31、1月1、2と8日間休んで3日から用事したんですけども。8日間休んで、本4冊ぐらい読んでいるいるな社会見て。遊びに行くときだけジェットラグというか、時差をあまり感じないんですね。仕事で行くと時差を感じるんですね。

やはりそうしてね、何が大事だかって、これからの県行政何が大事かということやはり教育と、安全・安心だと。いきなりそれをしゃべってます。やはり落ち着くところは、これ。なんぼ考えてみても教育と人材育成、教育と安全・安心。

安全・安心というのは介護だとか、要するに保育でもなんでも。それから治安。外国人犯罪も含めてすべての安全・安心につながるようなこと。これが1つの今年の重要政策だということ。やっぱり去年から考えていることと同じだなと。来年度、16年度の予算については、やっぱり重点枠というのは安全・安心枠ですね。これがやはりいきつく、人材育成とか教育も含めて、安全・安心を。そういうことになってくると思います。

行政のやることというのは規制じゃないんじゃないかなと、今これからは。あとはやることは県民が今、みんな個々多様でしょ、ニーズが。だからオーダーメイドでいこうと。行政としてオーダーメイドでいこうと。それだけ県庁の職員は能力あるというものの考え方です。

まあ、ちゃんと休んだらいいじゃない。あんなね、心配ない。なんぼ課長に目をつけら

れようが部長に目をつけられようが、自分が残業をしないと1年もやってみる。「あれはああいう男だから。そのかわり仕事はしっかりやるよと」それはそれでちゃんと通るんじゃないの。結論です、それ。

司会：

はい、ありがとうございます。

知事：

みなさんどうもありがとうございました。ご健康と青森県の発展、心から祈ります。そのうちまた一緒になりますんでね。その節はひとつよろしく面倒をみてください。よろしくどうぞ、ありがとうございました。

司会：

どうも寺田知事ありがとうございました。それでは寺田知事、そして阿部政策監、ご退席になりますので拍手でお送りしたいと思います。よろしくお願いします。以上で本日のセミナーを終了したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。